

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
公衆衛生学	必修科目	2	窪田 和巳	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）			

授業概要	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学び、人間の健康に影響を与える自然・社会・環境等を包括的に理解する。社会で生活しているすべての人々を対象に、集団の健康の維持増進のために、地域社会の中での多様な健康課題についてそれぞれどのような対策が立てられているのか、その科学的視点および実践的活動について学習し、疫学的研究手法や集団の疾病対策についての知識を深める。			
到達目標	近年、生活環境は多様化し、新興感染症の蔓延、高齢化社会など社会環境は日々変化している。将来看護職として、疾病予防・健康増進という視点から必要な情報を理解し、公衆衛生上の問題について対策や解決する能力をつける。	評価の方法と基準	「定期試験」60% 「レポート」40%	
事前・事後学習	日頃ニュースで医療、とりわけ公衆衛生に関する話題が流れることも多くなっておりますので、日常耳にする情報の中でどのような公衆衛生上の課題があるかを意識して授業に臨んでください。毎回準備した資料を基に学習および復習を行うこと。			
教科書	教科書は使用しない（資料配付）			
参考書	図解入門よくわかる公衆衛生学の基本としくみ	上地賢他	秀和システム	2020年
備考				

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	総論1：公衆衛生学とは	公衆衛生が国内外で発展してきた背景を概説する
2	総論2：公衆衛生の社会の位置づけ	公衆衛生に関する当局（厚労省）や関連するステークホルダーの役割を概説する
3	総論3：公衆衛生を看護の立場で学ぶ意味合い	公衆衛生において看護が学び社会に貢献できうる点を概説する
4	各論1：母子保健①	母子保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（母体保護法など）
5	各論2：母子保健②	母子保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する
6	各論3：学校保健	学校保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（学校保健師の役割等）
7	各論4：精神保健①	精神保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（精神保健福祉法など）
8	各論5：精神保健②	精神保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（社会的入院、地域での生活など）
9	各論6：高齢者保健	高齢者保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（孤独死、虐待など）
10	各論7：産業保健①	産業保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（企業の取り組み全般）
11	各論8：産業保健②	産業保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（産業保健師/看護師の役割）
12	各論9：感染症対策①	感染症領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（2000年以降の感染症対策を中心に）
13	各論10：感染症対策②	母子保健領域における公衆衛生上の課題と方略を概説する（新型コロナウイルスに焦点をあてて）
14	各論11：世界における公衆衛生対策の現状	世界における公衆衛生対策活動を概説する（WHOなど）
15	各論12：世界における公衆衛生対策の現状	世界における公衆衛生対策活動を概説する（世界で活躍する日本人の公衆衛生専門家を中心に）

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
疫学・保健統計	必修科目	2	窪田 和巳	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）			

授業概要	集団の健康状態、疾病や健康障害の発生頻度や分布を観察および解析し、それらに影響を与えたり関連する要因を明らかにし、公衆衛生上の対策立案や問題解決を行い、疾病の予防やコントロールについて学ぶ。具体的には、科学的根拠に基づいた保健活動を行う上で重要となる、保健医療分野における疫学の意義や重要性、疫学指標、疫学研究デザインについて理解し、さまざまな保健統計データの読み方・活用や、サーベイランスの方法について学ぶ。			
到達目標	研究論文の技法、デザイン、研究計画書、文献検索、研究倫理等について学修し、それらの技法・知識を用いて論文を読み書きできるようになる。また、統計解析の手法を理解して、科学的に研究論文・学術論文の成果を評価できるようになる。	評価の方法と基準	「定期試験」 60% 「レポート」 40%	
事前・事後学習	日頃ニュースで医療、とりわけ臨床研究に関する話題が流れることも多くなっておりますので、日常耳にする情報の中でどのような課題があるかを意識して授業に臨んでください。毎回準備した資料を基に学習および復習を行うこと。			
教科書	教科書は使用しない（資料配付）			
参考書	生物統計学の道標 医学・看護論文を読み解いて臨床に活かす方法 Evidence-based Medicine/Nursingのすべて	坂巻顕太郎、篠崎智大（監） 森田光治良，康永秀生	厚生労働統計協会 新興医学出版社	2023年 2024年
備考				

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	研究と科学的思考	研究の概念、研究過程について概観する。
2	研究者としての態度	研究者としての態度、研究倫理等について学ぶ。
3	研究方法、研究の意義と独自性	全般的な研究方法、研究の意義と独自性、先行研究等について学ぶ。
4	疫学・生物統計学基礎	疫学・生物統計学基礎について学ぶ。
5	研究デザイン	様々な研究デザインについて学ぶ。
6	研究計画書	研究計画書について概観し、作成方法を学ぶ。
7	文献・資料の蒐集と利用	文献・資料の蒐集・検索・利用方法を学ぶ。
8	研究論文の書式	研究論文の書式について学ぶ。
9	統計解析の手法：導入	統計解析についての各種手法を概観し、基本的な考え方や概念を学ぶ。
10	統計解析の手法：検定と推定	統計解析の土台となる検定論、推定論について学ぶ。
11	統計解析の手法：連続量の解析1	“連続的なアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 記述から単純な検定まで”
12	統計解析の手法：連続量の解析2	“連続的なアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 分散分析から回帰モデルまで”
13	統計解析の手法：カテゴリカルデータの解析1	“カテゴリカルなアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 記述から単純な検定まで”
14	統計解析の手法：カテゴリカルデータの解析2	“カテゴリカルなアウトカムデータを解析する手法を学ぶ。 層別解析から回帰モデルまで”
15	統計解析の手法：生存時間解析	“アウトカムが生存時間であるデータを解析する手法を学ぶ。 カプランマイヤー曲線からCOX回帰まで”

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
学校保健	必修科目	2	柴崎 卓己子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	学校保健			

授業概要	「学校保健とは何か」を命題として、児童生徒等の健康の保持増進を図り、学校教育活動に必要な健康や安全への配慮をするために、学校保健の領域構造や学校保健関係者の役割を理解し、保健管理と保健教育を関連付けた組織活動の展開について学ぶ。具体的に学校保健の考え方（理念）、しくみ（領域構造）、家庭や地域の専門機関との連携、学校保健会委員会、身近な児童生徒の健康課題に関する保健教育教材を作成と模擬保健教育などについての学びを深める。			
到達目標	1. 学校保健がどのような法律によって裏付けされているかを理解できる。 2. 学校教育の学校保健を理解でき、説明することができる。 3. 児童生徒等の健康課題の現状を理解し分析できる。	評価の方法と基準	定期試験 60% 課題 20% 小テスト20%	
事前・事後学習	学校保健に係る社会的問題に関心を持ち、主体的に情報収集し動向を把握する。問題意識を持って次のシラバスを確認し関連する内容を予習しておく。 事後は、ノートに整理し復習しておく。			
教科書	新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション	徳山美智子他	東山書房	2019年
	新訂版 学校保健実務必携 第5次改訂版	学校保健・安全実務研究会	第一法規	2020年
参考書				
備考	テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布する。 養護教諭専修免許をもち、小中学校で実務経験のある教員が授業を担当します。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス、学校保健の定義、学校教育と学校保健
2	学校保健に関する法律・学校保健の担当者	学校保健安全法、学校保健に関する行政、チーム学校、ヘルスプロモーション
3	学校保健経営・学校保健組織活動	学校保健安全計画、学校保健委員会
4	保健管理①	児童生徒の健康診断・健康観察
5	保健管理②	健康相談・健康相談活動
6	保健管理③	学校救急処置
7	保健管理④	学校環境衛生
8	保健教育①	教科における保健教育
9	保健教育②	特別活動における保健教育（保健指導）
10	学校安全	防災教育、学校における事故・けがの防止、犯罪被害
11	児童生徒の健康課題①	現代的健康課題（いじめ、不登校、学級崩壊、感染予防）
12	児童生徒の健康課題②	現代的健康課題（発育、薬物乱用防止教育、性に関する教育）
13	児童生徒の健康課題③	現代的健康課題（健康・発達・行動上の課題を有する子どもの支援）
14	学校給食	学校給食法、学校給食の目標、食中毒・アレルギーについて、食育
15	まとめ	総復習

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
養護概説	必修科目	2	柴崎 卓己子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護概説			

授業概要	養護教諭の職務である児童生徒の健康の保持増進に関する養護実践について学ぶ。養護の本質と概念、養護教諭制度や職務内容の歴史と変遷、養護教諭の専門性、養護教諭の職務内容である健康診断、救急処置、疾病予防などの保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動について実践や事例を通して学ぶ。学校保健安全法、学校教育法等の法規、児童生徒の現代的な健康課題とは何か、保健室経営計画のあり方の学習を通して、保健室や養護教諭像を探究する。			
到達目標	1. 養護教諭の本質と理念を説明できる。 2. 保健管理、保健教育、保健組織活動、保健室経営、健康相談等の養護教諭の職務に必要な専門知識を深める。 3. 養護教諭の専門性を生かした職務推進の実際に必要な能力を養成する。	評価の方法と基準	定期試験60%、課題20%、小テスト20%	
事前・事後学習	事前学習はシラバスに係る内容を確認し、全体を通した授業の内容を理解する。 授業の前には、教科書を読んでおく。 授業後は、授業内容を確認し不明確な点は自己学習で確認し、復習しておく。			
教科書	学校における養護活動の展開 改訂10版	津島ひろ江	ふくろう出版	2023年
参考書	新訂版 学校保健実務必携 第5次改訂版 養護概説	学校保健・安全実務研究会 三木とみ子	第一法規 ぎょうせい	2020年 2009年
備考	テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布する。 養護教諭専修免許をもち、小中学校で実務経験のある教員が授業を担当します。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス、養護教諭の歴史と職務内容の変遷
2	養護教諭の役割	学校教育法、学校保健安全法、職業倫理、養護教諭に求められる資質能力
3	学校教育と学校保健	教育行政、教育の目的、学校保健法令、教育課程、学習指導要領、保健教育
4	子どもの現代的健康課題	子どもの健康課題の推移、現代的な健康課題とその対応
5	保健組織活動	児童生徒保健委員会、学校保健委員会、チーム学校、関係機関との連携
6	保健室経営	学校経営と保健室経営、保健室経営の重要性、保健室経営計画・評価・改善
7	保健管理①	救急処置および災害給付制度
8	保健管理②	健康診断（定期・臨時・就学時健康診断）
9	保健管理③	健康診断（事後措置、教育への活用）
10	保健管理④	健康観察、疾病管理、アレルギー疾患管理
11	保健管理⑤	学校環境衛生
12	安全管理と危機管理	学校・子どもの状況、安全管理・危機管理の進め方、養護教諭の役割、心のケア
13	保健教育	保健教育の特質、教科保健、特別活動等による保健の指導
14	健康相談	養護教諭が行う健康相談、健康相談の進め方、校内組織体制づくり、教育相談
15	まとめ	学校保健三師、子供の発育・発達、職員健康診断、学校給食、中教審答申

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
健康相談活動	必修科目	2	柴崎 卓己子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法			

授業概要	養護教諭の行う健康相談活動の理論や方法、活動のプロセスや進め方、チームで進める健康相談活動について学ぶ。児童生徒の現代的健康課題である身体的症状、その背景にある心の悩みの健康相談における倫理的配慮について理解する。養護教諭の職務の専門性と他職種連携の方法、健康相談の困難事例について児童生徒の問題背景を踏まえた情報共有のあり方を学ぶ。また、保健室での実際対応事例の展開として、救急処置、保健指導、健康相談が連動していること学ぶ。			
到達目標	1. 児童生徒の心身の健康問題の現状と課題について説明することができる。 2. 健康相談活動の基本的な考え方とプロセスについて説明することができる。 3. 健康相談活動に必要な知識や技能を習得し、学校現場で実践する力を備えることができる。 4. 学校内外の関係者と連携した支援の在り方について説明することができる。	評価の方法と基準	定期試験50%、課題10%、小テスト10% ロールプレイ30%	
事前・事後学習	子どもたちの心とからだの両面に対応する活動であるため、事前に疾病・看護、精神保健等の知識と技術をしっかりと予習しておく。 事後は、ノートに学びを整理する。			
教科書	新版 養護教諭が行う健康相談	大谷尚子他編著	東山書房	2016年
参考書	養護教諭の健康相談ハンドブック	森田光子	東山書房	2010年
備考	テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布する。 養護教諭専修免許をもち、小中学校で実務経験のある教員が授業を担当します。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス、教育における養護教諭の役割の確認
2	健康相談活動とは何か①	養護教諭の職務と健康相談、養護教諭が行う健康相談の法的根拠とプロセス
3	健康相談活動とは何か②	健康相談の基本的理解、保健室の機能の理解
4	健康問題の現状と課題	社会の変化と健康問題の変遷、子どもの心身の現代的健康課題、子ども理解
5	健康相談の進め方①	アセスメントとは、アセスメントの必要性、支援のための方法
6	健康相談の進め方②	支援目標、背景・重症度の判断
7	健康相談の進め方③	対応の原則、連携を必要とするの判断、継続的にかかわる対応
8	健康相談の進め方④	記録の目的と意義、内容と方法、保管とプライバシーの保護
9	健康相談の演習①	ロールプレイ①（腹痛）
10	健康相談の演習②	ロールプレイ②（頭痛）
11	健康相談の演習③	ロールプレイ③（気分が悪い）
12	事例から学ぶ①	いじめ、保健室登校、発達障害
13	事例から学ぶ②	児童虐待、自傷行為、摂食障害
14	事例から学ぶ③	心理的ストレス、問題行動、発達障害
15	まとめ	健康相談活動のまとめを発表、振り返り

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
栄養と代謝	必修科目	2	小野 章史、佐久間 良子	オムニバス
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	栄養学（食品学を含む。）			

授業概要	人体（生物体）の機能を細胞内での物質の変化（代謝）の面から学習し、糖質、脂質、タンパク質の化学と代謝、核酸の化学と代謝、遺伝情報、エネルギー恒常性に関わる調節系について理解する。食物を通して摂取した栄養素が、どのように体内で代謝されて、人体をつくる材料となり、生活のエネルギー源になっていくかを理解する。これらを通して栄養素が体にとって何のために、なぜその量が必要なのか、健康と病気、看護に関連づけて考える。 （オムニバス方式/全15回） （小野章史/10回）栄養学の概論、栄養素の種類と働き、食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝、食事と食品、栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定、臨床栄養、疾患別食事療、場面別栄養管理 （佐久間良子/5回）看護と栄養、ライフステージと栄養①②③、健康づくりと食生活			
到達目標	1. 栄養の意義および保健・医療における栄養の重要性を理解できる。 2. 栄養と健康・疾病との関係を説明できる。 3. 各疾患における栄養管理の意義と原則を説明できる。 4. 患者の生活を視野に、栄養状態を把握し、看護師の役割を説明できる。	評価の方法と基準	「定期試験」80％ 「課題レポート」20％	
事前・事後学習	事前学習として、自身の食生活や栄養および健康について関心を持ち、これらに関する新聞記事や情報等を集め、指定したテキストの次回授業内容を事前に読む。 事後学習として、講義内容の重要ポイントを整理し、理解を深める。			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学」第13版	小野章史	医学書院eテキスト	2023年
	糖尿病食事療法のための食品交換表(第7版)	日本糖尿病学会編	日本糖尿病協会・文光堂	2016年
参考書				
備考				

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	栄養学の概論	授業ガイダンス、栄養学の歴史、保健・医療と栄養、チーム医療と栄養ケア（小野）
2	栄養素の種類と働き	栄養素（糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラル・食物繊維・水）と働き（小野）
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物の消化、栄養素の吸収、栄養素の代謝、吸収・代謝産物の排泄（小野）
4	エネルギー代謝	食物のエネルギー、エネルギー消費（基礎代謝・活動代謝）（小野）
5	食事と食品	食事摂取基準、食品群の分類（小野）
6	栄養ケア・マネジメント	栄養ケア・マネジメント、栄養ケアスクリーニングとケアプロセス（小野）
7	栄養状態の評価・判定	栄養アセスメントの意義と方法、栄養状態の総合評価（小野）
8	臨床栄養	栄養補給法、病院食、経腸栄養食品、静脈栄養剤（小野）
9	疾患別食事療法	疾患・症状別食事療法の実際（小野）
10	場面別栄養管理	治療を要する小児の栄養管理、術前・術後の栄養管理等（小野）
11	看護と栄養	看護と栄養（佐久間）
12	ライフステージと栄養①	乳幼児期・学童期・思春期・青年期（佐久間）
13	ライフステージと栄養②	成人期・高齢期（佐久間）
14	ライフステージと栄養③	妊娠期・授乳期・更年期（佐久間）
15	健康づくりと食生活	健康づくりと食生活（佐久間）

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
人体の構造と機能Ⅰ	必修科目	2	金田 浩太郎	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	解剖学・生理学			

授業概要	人体の基本構造、人体を構成する運動系、神経系、感覚器系、循環系、血液系、生体の制御の器官とその正常な形態や構造および機能について学ぶ。細胞とその周辺基質を基本として組織が構築され、組織の組み合わせによって器官が成り立ち、生存を可能にするしくみを系統的に学習する。人体を系統立てて理解するとともに、健康・疾病・障害に関連づけて学習することで、病態の理解や科学的根拠に基づく看護実践の基盤となる知識を身につける。				
到達目標	1. 細胞の構造・機能、組織について説明できる 2. 消化器系の構造・機能について説明できる 3. 呼吸器系の構造・機能について説明できる 4. 血液の組成と機能について説明できる 5. 循環器系の構造・機能について説明できる 6. 尿路系の構造・機能について説明できる 7. 骨格・筋の構造・機能について説明できる	評価の方法と基準	定期試験 80% 事後テスト 20%		
事前・事後学習	十分な知識を得るためには、事前学習として、教科書の該当箇所を熟読し予習しておくこと。事後学習として復習を行い、専門用語などを憶えること。				
教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 第11版	坂井建雄	医学書院eテキスト	2022年	
参考書					
備考	病院で医師としての実務経験がある教員が行う授業です。				

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス、構造からみた人体、人体の様々な器官
2	細胞、組織	細胞の構造・機能、組織
3	消化器系Ⅰ	消化管
4	消化器系Ⅱ	膵臓、肝臓、胆嚢
5	呼吸器系Ⅰ	呼吸器の構造
6	呼吸器系Ⅱ	呼吸
7	血液	血液
8	循環器系Ⅰ	心臓
9	循環器系Ⅱ	血管
10	循環器系Ⅲ	循環、リンパ
11	尿路系Ⅰ	腎臓、排尿路
12	尿路系Ⅱ	尿、体液の調節
13	骨格、筋Ⅰ	骨、関節、骨格筋
14	骨格、筋Ⅱ	体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋
15	骨格、筋Ⅲ	筋の収縮と運動

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
人体の構造と機能Ⅱ	必修科目	2	金田 浩太郎	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	解剖学・生理学			

授 業 概 要	人体を構成する呼吸器系、消化器系と代謝、泌尿器系、内分泌系の器官とその正常な形態や構造および機能、体温調整と生体リズム、生殖と老化について学ぶ。細胞とその周辺基質を基本として組織が構築され、組織の組み合わせによって器官が成り立ち、生存を可能にするしくみを系統的に学習する。人体を系統立てて理解するとともに、健康・疾病・障害に関連づけて学習することで、病態の理解や科学的根拠に基づく看護実践の基盤となる知識を身につける。			
到達目標	1. 神経系の構造・機能について説明できる 2. 感覚器系の構造・機能について説明できる 3. 自律神経系の構造・機能について説明できる 4. 内分泌系の構造・機能について説明できる 5. 皮膚の構造・防御機構について説明できる 6. 体温調節について説明できる 7. 生殖器系の構造・機能について説明できる 8. 胎児の発生、成長と老化について説明できる	評価の方法 と基準	定期試験 80% 事後テスト 20%	
事前・ 事後学習	十分な知識を得るためには、事前学習として、教科書の該当箇所を熟読し予習しておくこと。事後学習として復習を行い、専門用語などを憶えること。			
教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 第11版	坂井建雄	医学書院eテキスト	2022年
参考書				
備考	病院で医師としての実務経験がある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	神経系Ⅰ	神経系の構造と機能
2	神経系Ⅱ	中枢神経系
3	神経系Ⅲ	末梢神経系
4	神経系Ⅳ	脳の統合機能
5	感覚器系Ⅰ	視覚、聴覚
6	感覚器系Ⅱ	味覚、痛覚
7	自律神経系	自律神経
8	内分泌系Ⅰ	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺
9	内分泌系Ⅱ	膵臓、性腺、ホルモン分泌の調節
10	皮膚、防御機構	皮膚の構造と機能、生体の防御機構
11	体温	体温とその調節
12	生殖器系	男性生殖器、女性生殖器
13	成長と老化	胎児の発生、成長、老化
14	体表から見た人体	体表から触知できる骨格、筋、動脈
15	まとめ	まとめ

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
臨床病態学Ⅰ (病理学、微生物学)	必修科目	2	金田 浩太郎	単独
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		「微生物学、免疫学、薬理概論」		

授業概要	器官系統的に疾病の成り立ちと回復の促進について学び、看護実践の基盤となる臨床判断に必要な知識を身につける。臨床病態学Ⅰでは、病理学・微生物学を学習する。病理学では、病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を得る。微生物学では、微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。			
到達目標	1. 病理学と病気の原因について説明できる 2. 細胞・組織の損傷と修復、老化と死について説明できる 3. 感染症の症状と病態生理、診断と治療、主な疾患について説明できる	評価の方法と基準	定期試験 80% 事後テスト 20%	
事前・事後学習	十分な知識を得るためには、事前学習として、教科書の該当箇所を熟読し予習しておくこと。事後学習として復習を行い、専門用語などを憶えること。			
教科書	系統看護学講座 病理学 疾病のなりたちと回復の促進1 第6版	大橋健一	医学書院eテキスト	2021年
	系統看護学講座 成人看護学11 第15版	岩田健太郎	医学書院eテキスト	2020年
参考書				
備考	病院で医師としての実務経験がある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス	看護と病理学、病気の原因
2	細胞・組織の損傷と修復、老化と死	細胞・組織の損傷と修復、炎症、老化と老年症候群、老化のメカニズム、死と終末期医療
3	免疫、移植と再生医療	免疫と免疫不全、アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療
4	循環障害Ⅰ	浮腫、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症
5	循環障害Ⅱ	虚血と梗塞、側腹循環、高血圧症、DIC、ショック
6	代謝障害	脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖代謝異常、そのほかの代謝障害
7	先天異常と遺伝性疾患	遺伝、先天異常、遺伝子の異常と疾患、
8	腫瘍	腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりや影響、腫瘍の発生、腫瘍の診断と治療
9	生活習慣と環境因子による障害	生活習慣による生体の障害、放射線による障害、中毒
10	感染症	感染症の成立と発病、感染症の病態生理、感染症でみられる症状
11	感染症の検査・診断	感染症診断の原則、検査・診断・治療の流れ、検査の実際
12	感染症の治療	感染症治療の原則、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、一次予防と二次予防
13	主な感染症Ⅰ	呼吸器系感染症、心血管系感染症、消化器系感染症
14	主な感染症Ⅱ	性感染症、皮膚軟部組織感染症、眼の感染症、中枢神経感染症
15	真菌感染症、寄生虫感染症、まとめ	真菌感染症、寄生虫感染症、日和見感染症、多剤耐性感染症

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
精神ヘルスケア概論	必修科目	1	中島 充代	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	精神保健			

授業概要	こころの健康のあり方、こころのしくみと働き、ストレスや危機がこころの健康に及ぼす影響と回復、ライフサイクルとメンタルヘルスについて広く学ぶ。また、現代社会の課題やメンタルヘルスとの関連を学び、精神保健が、個人・家族・集団・組織・地域・社会だけでなく文化や様々な環境も影響することを学ぶ。また精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的な変遷をふまえて人権尊重・権利擁護について理解し、精神ヘルスケアの実践の基盤となる考え方を 知る。			
到達目標	1. 精神（こころ）の健康の概念やライフサイクルにおける危機的状況が理解できる。 2. 精神保健医療の歴史を学習し、精神看護における基本的人権と倫理が理解できる。 3. 地域精神保健における家族・暮らしの場における精神（こころ）の健康の現状と課題について理解できる。 4. 現代社会特有の精神保健上の問題の現状と社会背景が理解できる。	評価の方法と基準	定期試験80% 振り返りレポート20%	
事前・事後学習	事前学習：指定した教科書の授業に該当する箇所を熟読し、キーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。 事後学習：その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する。			
教科書	系統別看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 第6版	武井麻子	医学書院eテキスト	2021年
参考書	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生ほか	メヂカルフレンド社	2021年
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉	末安民生ほか	医学書院	2022年
	新版 精神看護学	遠藤叔美ほか	中央法規	2020年
備考	病院で看護師としての実務経験のある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 精神（こころ）の健康①	精神保健・精神看護学とは、脳とこころ、予防の概念
2	精神保健医療福祉の歴史①	世界・日本における精神医療の歴史と看護
3	精神保険医療福祉の歴史②	精神保健医療福祉における関係法規と患者処遇
4	精神医療における倫理と権利擁護	患者の権利擁護（アドボカシー）、権利保障、地域移行
5	精神の危機的状況と精神看護	ストレスと危機、ストレスコーピング、適応と不適応、セルフマネジメント
6	地域精神保健①	災害時の地域精神保健活動
7	地域精神保健②	学校と精神保健、職場・仕事と精神保健、家族と精神保健
8	現代社会とこころの健康	精神保健が関与する社会病理現象

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
精神ヘルスケア方法論Ⅰ	必修科目	1	中島 充代	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	精神保健			

授業概要	こころの健康、発達と精神機能について発達論など様々な理論をもとに学び、こころの動きや感情の構造について理解する。また人のストレスと危機およびその反応について理解し、危機管理におけるメンタルヘルスについて学ぶ。こころの不調を抱える人が、その人らしい生活を送り、または取り戻すための看護師の関わりについて学び、患者―看護師関係における相互作用の理解を深める。さらに精神保健に関わる様々な職種について、その役割を学び、多職種連携とそこでの看護師の役割を学ぶ。			
到達目標	1. 精神（こころ）を病むことの意味や対象者への影響について理解できる。 2. 精神医療における療養環境を理解し、患者の事故防止や安全管理について理解できる。 3. 精神医療における各種疾患の治療の意味を看護の視点から捉え、精神症状と治療および看護について理解できる。 4. 地域精神保健における地域移行・定着の多職種連携、社会資源および長期入院に対する看護師の役割を理解できる。	評価の方法と基準	定期試験80% 振り返りレポート20%	
事前・事後学習	事前学習：指定した教科書の授業に該当する箇所を熟読し、キーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。 事後学習：その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する。			
教科書	系統別看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 第6版	武井麻子	医学書院eテキスト	2021年
参考書	リカバリーのためのワークブック 回復を目指す精神科サポートガイド	水野雅文ほか	中央法規	2018年
	認知行動理論に基づく精神看護過程 よくわかる認知行動療法の基本と進め方	岡田佳詠ほか	中央法規	2016年
	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつひとの看護	岩崎弥生ほか	メヂカルフレンド社	2021年
備考	精神科病院で看護師としての実務経験のある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 精神障害の理解	授業ガイダンス、精神障害とは、精神医療・看護の対象
2	精神看護における医療安全	精神科療養環境とリスクマネジメント
3	こころの機能と発達	エリクソン・ボウルビィ・マズロー
4	回復を支援する理論	リカバリ、ストレングス、エンパワメント、レジリエンス
5	精神科治療と看護①	脳の構造と機能、神経伝達物質と精神機能、精神症状学
6	精神科治療と看護②	心理検査、身体療法、精神療法、精神科リハビリテーション
7	精神科治療と看護③	薬物療法
8	精神疾患と看護①	統合失調症の特徴と看護
9	精神疾患と看護②	気分（感情）障害の特徴と看護、睡眠障害の特徴と看護
10	精神疾患と看護③	ストレス関連障害の特徴と看護、不安障害の特徴と看護
11	精神疾患と看護④	アディクションの特徴と看護、摂食障害の特徴と看護
12	精神疾患と看護⑤	パーソナリティ障害の特徴と看護
13	精神疾患と看護⑥	発達障害の特徴と看護、児童思春期の行動・情緒の障害
14	社会復帰支援①	地域包括ケアシステム、社会資源の活用とケアマネジメント
15	社会復帰支援②	多職種連携と看護の役割、コンサルテーションと連携

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
看護学概論	必修科目	2	中嶋 恵美子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授業概要	多様な人々とその生活や社会・文化、保健医療福祉の場における看護職の役割を理解するために、看護学の基本的概念である「人間」「環境」「健康」「看護」と、主な看護理論、看護の機能について学習する。さらに、人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づいた行動を身につけるための基盤として、看護学の歴史の変遷から近年の看護の役割や看護実践の課題を概観し、看護における人間の全人的理解に必要な要素や看護職の責務について学ぶ。			
到達目標	1. 人間を身体的・精神・心理社会的統合体として説明できる。 2. 看護の歴史の変遷と看護理論家や看護職能団体による看護の定義を基に看護の本質は何か説明できる。 3. 人間の生活と健康、および環境との関連を説明できる。 4. 保健医療福祉分野で働く職種と役割、チーム医療における看護職の役割と機能について説明できる。 5. 日本の看護職の資格と養成制度について説明できる。	評価の方法と基準	定期試験60%、レポート40%で評価する。	
事前・事後学習	事前学習：前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。 事後学習：各回の授業資料および教科書を見直し、知識を整理しておくこと。疑問点があれば次回の授業時に質問すること。			
教科書	系統看護学講座 看護学概論 第17版	茂野香おる 他	医学書院eテキスト	2020年
参考書				
備考	病院で看護師としての実務経験のある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 健康の捉え方①	授業ガイダンス、健康とは何か、健康の関連要因
2	健康の捉え方②	社会の変遷と健康観の変化、健康の概念と位置づけの変化
3	看護の対象の理解①	統合体としての人間、生活体としての人間、ニードをもつ人間、成長・発達する人間
4	看護の対象の理解②	ライフサイクルにおける発達課題と健康上の問題
5	看護の歴史の変遷	看護の歴史の変遷
6	看護理論家の定義①	ナイチンゲールの看護の定義
7	看護理論家の定義②	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護の定義
8	看護理論家の定義③	オレムやロイなど他の看護理論家の看護の定義
9	看護職能団体による看護の定義	看護の定義の構成要素、職能団体の看護の定義（日本看護協会・ICN・ANA等）
10	看護提供者の理解	現代の看護職者に関わる教育とキャリア開発
11	看護提供の仕組み①	看護サービス、看護サービス提供の場
12	看護提供の仕組み②	看護をめぐる制度と政策、医療の質保証
13	看護の活動の場①	広がる看護の場、地域包括ケアシステム（多職種連携）
14	看護の活動の場②	グローバル化と看護、災害と看護
15	まとめ	看護学概論のまとめ、暮らしと地域を知る実習に向けて

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
家族看護学	選択科目	1	佐藤 繭子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授業概要	家族を構成する家族成員全体を視野に入れて看護を行う家族看護学の特徴と理論・理念を学ぶ。家族成員に生じた健康問題は、その患者本人の身体的・心理的・社会的問題のみならず、家族全員に影響を及ぼす。現代における家族のあり方を家族の機能や構造から学び、複雑かつ多様な家族を理解する。家族看護学における諸理論から家族看護の方法論を理解し、家族に対する家族アセスメントおよび家族介入の具体的方法を学習する。			
到達目標	1. 家族看護の特徴・理念・対象を理解できる 2. 家族看護を支える理論と介入法が理解できる 3. 事例を通して家族看護に必要な情報収集と看護アセスメントができる	評価の方法と基準	定期試験　60% 課題レポート　40%	
事前・事後学習	事前学習：第1回は、第1章　家族看護とは　を読んでおく。第2回以降は、前回の授業において指示された教科書ページ・参考文献を熟読すること。 事後学習：各回の授業資料および教科書を見直し、知識を各自整理しておくこと。疑問点があれば次回の授業時に質問すること。			
教科書	系統看護学講座別巻　家族看護学	上別府　圭子他	医学書院eテキスト	2024年
参考書	家族看護学　改訂第3版 講義の中で書籍や文献を紹介します。	山崎あけみ・原礼子編	南江堂	2022年
備考	看護師として病院での実務経験を有する教員が担当します。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 家族看護とは	講義日程、学習方法等の説明、家族の定義、特徴、理念
2	家族看護の対象理解	家族構造、家族機能、現代の家族とその課題
3	家族看護を支える理論と介入法	家族を理解するための理論、家族の変化を把握するための理論
4	家族看護展開の方法	家族看護の実践、さまざまな看護アセスメントモデル
5	事例を通じた家族看護の展開①	周産期に関する家族看護の展開
6	事例を通じた家族看護の展開②	グループ毎に事例を決定し、看護過程の展開を行う
7	事例を通じた家族看護の展開③	看護過程の展開（ディスカッション）
8	事例を通じた家族看護の展開④	プレゼンテーション、まとめ

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ	必修科目	2	濱田 裕子、石村 美由紀	オムニバス
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授 業 概 要	胎児期、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期の正常な発達を理解し、小児ヘルスケアとウイメンズヘルスケアの基盤となる概念（子どもの権利、リプロダクティブヘルス／ライツ）および母子を取り巻く社会の動向について理解する。具体的には、ウイメンズヘルスケアでは、ウイメンズヘルス、リプロダクティブヘルス・ライツ(性と生殖に関する健康と権利)の概念を基盤に、女性の健康（ウイメンズヘルス）を取り巻く概念・理念、社会の変遷と現状などを学ぶ。小児ヘルスケアについては、子どもの成長・発達や子育てに関する社会の変化と現状・課題などを学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （濱田 裕子/7.5回）子どものライフステージと小児ヘルスケアの基盤となる概念、小児ヘルスケアの歴史と意義変遷、小児ヘルスケアの特徴と理念、社会の変化と小児ヘルスケア、子どもと家族を理解するための発達理論、乳幼児期の子どもと家族、子どもの成長発達とヘルスケア、まとめ （石村 美由紀/7.5回）ウイメンズヘルスケアの基盤となる理論と概念、生殖に関する形態機能とライフステージ、女性のライフステージと性・生殖の健康、ウイメンズヘルスケアの対象を取り巻く社会の変遷と現状、母子に関わる法律と社会資源、母子保健統計、性と生殖の倫理的課題、まとめ			
到達目標	1.胎児期、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期の正常な発達を理解する。 2.女性の健康（ウイメンズヘルス）を取り巻く概念・理念、社会の変遷と現状などを学ぶ。 3.小児ヘルスケアについては、子どもの成長・発達や子育てに関する社会の変化と現状・課題などを学ぶ。	評価の方法と基準	定期試験70%、課題レポート30%で評価する。	
事後学習	事前学習：授業内容について、事前に教科書を読み、興味関心、疑問などを挙げておく。 事後学習：授業内容をまとめ、復習し、知識の定着を図る。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版	奈良間 美保	医学書院eテキスト	2020年
	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 第14版	森恵美	医学書院eテキスト	2021年
参考書				
備考	病院の小児科病棟および産科病棟で看護師、助産師としての実務経験を有する教員が、経験を活かした指導を行う。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 子どものライフステージと小児ヘルスケアの基盤となる概念	講義全体の進め方、小児ヘルスケアとは、子どものライフステージ、小児ヘルスケアに重要な概念、子どもの健康の概念（濱田）
2	小児ヘルスケアの歴史と意義変遷、法律・施策	小児ヘルスケアの歴史と意義変遷、法律・施策（濱田）
3	小児ヘルスケアの特徴と理念、子どもの権利と看護	小児ヘルスケアにおける理念・倫理、子どもの権利と看護（濱田）
4	社会の変化と小児ヘルスケア	子どもと家族と社会：変化する社会の中の子ども（濱田）
5	子どもと家族を理解するための発達理論	子どもにとっての家族、家族発達理論、家族システム理論（濱田）
6	乳幼児期の子どもと家族	乳幼児期の子どもの特徴と、その家族の特徴（濱田）
7	子どもの成長発達とヘルスケア	成長・発達の原則、各発達段階の子どもと家族の特徴（濱田）
8	授業ガイダンス ウイメンズヘルスケアの基盤となる理論と概念	女性のライフステージ、ウイメンズヘルスケアとは、ウイメンズヘルスケアの基盤となる理論と概念（石村）
9	生殖に関する形態機能とライフステージ	性周期と性ホルモン、遺伝・染色体のメカニズムと遺伝性疾患、生殖器の形態と機能、月経のメカニズム（石村）
10	女性のライフステージと性・生殖の健康 プレコンセプションケア	女性の各ライフステージにおける性と生殖の健康、妊孕性、プレコンセプションケア、デートDV（石村）

11	ウイメンズヘルスケアの対象を取り巻く社会の変遷と現状	周産期医療体制の歴史的変遷と現状（石村）
12	母子に関わる法律と社会資源	母子に関わる法律、母子保健に関する社会資源の現状と課題（石村）
13	母子保健統計	日本の人口・出生率、母子保健水準、諸外国における母子保健統計と日本の比較（石村）
14	性と生殖の倫理的課題	性と生殖の倫理的課題：生殖補助医療、出生前診断、人工妊娠中絶（石村）
15	まとめ	前半：小児ヘルスケアにおける倫理的課題、トピックス（濱田） 後半：ウイメンズヘルスケア、概論のまとめ（石村）

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
小児ヘルスケア方法論Ⅰ	必修科目	1	濱田裕子、吉川未桜、 原田美和子、森口晴美	オムニバス 複数（一部）
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授 業 概 要	小児期における各発達段階（乳児期、幼児期、学童期、思春期）の身体的、社会的、心理的特徴を理解する。子どもの成長・発達にあわせた望ましい養育環境、養育者への支援および子どもと家族の成長・発達や健康をサポートするヘルスケアの方法について学ぶ。あらゆる健康レベルの子どもの健やかな成長・発達を支え、子どもと家族のQuality Of Lifeの向上を目指すためのアセスメントと子どもを対象とした健康教育について学ぶ。 （オムニバス方式・共同（一部）/全15回） （濱田 裕子/10回）ガイダンス 小児看護の特徴、社会における子ども、幼児期の子どもと家族1、幼児期の子どもと家族2、学童期の子どもと家族、思春期の人々と家族、健康障害と子ども、小児の疾患と看護1、小児の疾患と看護2、まとめトピックス （吉川 未桜/2回）乳児期の子どもと家族、養育期の家族の実際 （濱田 裕子、吉川 未桜、原田 美和子、森口 晴美/3回）子どもと家族の生活の実際1、子どもと家族の生活の実際2、子どもと家族生活の実際			
到達目標	1. 現代社会の中での子どもとその家族の特徴を説明できる。 2. 子どもと家族の生活の実際の課題を探究しに取り組むことができる。 3. 小児の発達段階毎の成長発達の特徴について説明できる。 4. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について述べるができる。	評価の方法と基準	定期試験 70% 課題 20% レポート 10%	
事前・事後学習	事前課題：教科書の該当箇所を一読して講義に参加する。 事後課題：配布資料・教科書の復習、レポート			
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 第7版	中野綾美	メディカ出版	2023年
参考書	小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版	奈良間美保他	医学書院 eテキスト	2020年
備考	授業は看護師の資格を持ち、病院で小児看護の実務経験のある教員が行う。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 小児看護の特徴	小児ヘルスケア論（小児看護学）の全体像・子どもと社会（濱田）
2	社会における子ども	現代社会の中での子どもと家族の特徴（濱田）
3	子どもと家族の生活の実際 1	子どもと家族の生活の実際に関するテーマを設定し演習に取り組む（全員）
4	子どもと家族の生活の実際 2	子どもと家族の生活の実際に関するテーマを設定し演習に取り組む（全員）
5	乳児期の子どもと家族	乳児期の子どもの形態的成長・発達の特徴と健康問題・看護（吉川）
6	子どもと家族生活の実際	子どもと家族の生活の実際に関する発表（全員）
7	幼児期の子どもと家族 1	幼児期の子どもの形態的成長・発達の特徴と生活習慣（濱田）
8	幼児期の子どもと家族 2	幼児期の子どもの健康問題・看護（濱田）
9	学童期の子どもと家族	学童期の子どもの成長・発達の特徴と健康問題・看護（濱田）
10	思春期の人々と家族	思春期の子どもの成長・発達の特徴と健康問題・看護（濱田）
11	養育期の家族の実際	養育期にある家族の体験（吉川）

12	健康障害と子ども	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護(濱田)
13	小児の疾患と看護 1	小児に起こりやすい疾患と看護 1 (濱田)
14	小児の疾患と看護 2	小児に起こりやすい疾患と看護 2 (濱田)
15	まとめ、トピックス	現代社会における小児ヘルスケア・トピックス(濱田)

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
小児ヘルスケア方法論Ⅱ	必修科目	2	吉川未桜、濱田裕子、 原田美和子、森口晴美	オムニバス 複数（一部）
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授 業 概 要	小児期に出現しやすい健康障害と子どもに特有の症状を理解し、子どもと家族の権利を擁護しながら子どもの安全で安楽なケアを提供するために、科学的な根拠に基づいた看護実践を学ぶ。あらゆる年齢、健康レベルにある子どもに適した看護技術を学び、対象となる子供とその家族が主体的に治療、検査、処置に取り組むための援助方法を理解する。子どもにとって最善のケアを提供することができるように家族を含めた対象者の看護過程を展開する。 （オムニバス方式・共同（一部）/全30回） （吉川 未桜/8回）外来における子どもと家族への看護 検査・処置を受ける子どもと家族の看護、小児の症状別看護、急性期疾患の子どもと家族の看護(1)(2)、手術を受ける子どもと家族の看護、先天的な健康問題をもつ子どもと家族の看護、慢性期にある子どもと家族の看護、成人移行期にある子どもと家族の看護 （濱田 裕子/4回）集中的治療を受ける子どもと家族の看護、在宅における子どもと家族の看護、家族の体験から考 える小児看護、命を脅かされている子どもと家族の看護 （濱田 裕子、吉川 未桜、原田 美和子、森口 晴美/18回）小児の看護技術演習(1)～(10)、看護過程(1)～(6)、事 例に対する実践演習(1)(2)			
到達目標	1. 子どもに起こりやすい症状の観察ポイントと援助の方法を説明できる 2. 様々な健康障害をもつ子どもと家族の看護について説明できる 3. 子どもへの安全で適切な看護技術を実施できる 4. 事例の看護過程を展開し、子どもと家族の看護問題、看護計画を考え導き出すことができる 5. 子どもの権利を尊重した看護について考え、意見交換し、学びを共有することができる	評価の方法 と基準	定期試験 60% 事前・事後学習（確認テスト含む）40%	
事前・ 事後学習	事前課題：eラーニングの事前課題（教科書にも目を通しておく） 事後課題：eラーニングの確認テスト、配布資料・教科書の熟読			
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 第7版	中野綾美	メディカ出版	2023年
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2) 小児看護技術 第5版	中野綾美	メディカ出版	2023年
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 第3版	中野綾美	メディカ出版	2022年
参考書	小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版	奈良間美保他	医学書院 e テキスト	2020年
	小児看護学[2]小児臨床看護各論 第14版	奈良間美保他	医学書院 e テキスト	2020年
備考	授業は看護師の資格を持ち、病院で小児看護の実務経験のある教員が行う。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス、外来における子どもと家族への看護、検査・処置を受ける子どもと家族の看護	授業ガイダンス、小児外来の特徴、外来における子どもと家族への看護、子どもの検査・処置の特徴、子どもへの説明と同意、子どもの安全・安楽の援助と子どもの力を引き出す支援(吉川)
2	小児の症状別看護	発熱、けいれん、痛み、発疹、呼吸困難、嘔吐・下痢、脱水時の看護の看護(吉川)
3	急性期疾患の子どもと家族の看護(1)	感染症・呼吸器疾患などの急性症状を呈する子どもと家族の看護について理解する(吉川)
4	急性期疾患の子どもと家族の看護(2)	アレルギーや川崎病などの急性症状を呈する子どもと家族の看護について理解する(吉川)
5	手術を受ける子どもと家族の看護	手術を受ける子どもの特徴、手術の時期と種類、術前から術後の看護など手術を受ける子どもと家族への看護について理解する(吉川)
6	集中的治療を受ける子どもと家族の看護	NICU・PICU・救急など集中治療を受ける子どもと家族の看護について理解する(濱田)
7	先天的な健康問題をもつ子どもと家族の看護	ダウン症や二分脊椎、脳性麻痺などの先天的な健康問題をもつ子どもと家族の看護について理解する(吉川)
8	慢性期にある子どもと家族の看護	腎疾患などの慢性的な経過をたどる子どもの看護について理解する(吉川)
9	成人移行期にある子どもと家族の看護	I型糖尿病・先天性心疾患などの移行期医療が必要な子どもの看護について理解する(吉川)

10	在宅における子どもと家族の看護	医療的ケア児を含む在宅で療養する子どもと家族の看護について理解する(濱田)
11	家族の体験から考える小児看護	療養する子どもの家族の特徴や家族の体験から、家族への看護を理解する(濱田)
12	命を脅かされている子どもと家族の看護	子どもの緩和ケアの特徴と看護について理解する(濱田)
13	小児の看護技術演習(1)	安全(ベッド柵、固定、鎮静)と事故予防(全員)
14	小児の看護技術演習(2)	抱っこ、フィジカルアセスメント(身体計測、バイタルサイン測定)(全員)
15	小児の看護技術演習(3)	乳幼児の身体計測実践(全員)
16	小児の看護技術演習(4)	乳幼児のバイタルサイン測定実践(全員)
17	小児の看護技術演習(5)	栄養(調乳・授乳、食事介助、経管栄養)(全員)
18	小児の看護技術演習(6)	与薬(経口与薬、座薬、貼付薬)、輸液管理(全員)
19	小児の看護技術演習(7)	排泄(浣腸・おむつ交換)(全員)
20	小児の看護技術演習(8)	清潔(沐浴・殿部浴、清拭、更衣、口腔ケア)(全員)
21	小児の看護技術演習(9)	呼吸(酸素投与、吸入、吸引)(全員)
22	小児の看護技術演習(10)	小児の検査時の援助(採血、採尿など)(全員)
23	看護過程(1)	事例の情報の整理とアセスメント(個別+グループワーク)(全員)
24	看護過程(2)	事例の関連図、看護問題の抽出(個別+グループワーク)(全員)
25	看護過程(3)	事例の関連図、看護問題の発表(全員)
26	看護過程(4)	事例の統合アセスメント・看護計画(個別+グループワーク)(全員)
27	看護過程(5)	事例の統合アセスメント・看護計画の発表(全員)
28	看護過程(6)	事例の日々の計画と目標・行動計画立案(グループワーク)(全員)
29	事例に対する実践演習(1)	事例の場面を設定し、プレパレーション等活用して計画の一部を実践発表(全員)
30	事例に対する実践演習(2)	事例の場面を設定し、プレパレーション等活用して計画の一部を実践発表(全員)

授業科目名		教員の免許状取得のための		単位数	担当教員名	担当形態
小児ヘルスケア実習		必修科目		2	吉川未桜、濱田裕子、 原田美和子、森口晴美	複数
科 目			養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等			看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			
授 業 概 要	健康な子どもとのかかわりを通して、小児各期の成長・発達を理解し、子どもおよび家族に適切な看護を実践する。医療の場においては、健康障害を抱える小児とその家族を対象に、子どもと家族の権利を擁護しながら成長・発達・疾患などを考慮した看護過程を展開し、適切な看護実践を学ぶ。また様々な場において、子どもとその家族とかかわり、子どもの健康レベルに応じて看護過程を展開し、成長・発達を促進するための看護実践力を身につける。 (共同)					
到達目標	1. 子どもの成長発達の個性を理解できる 2. 発達に応じたコミュニケーションとセルフケア援助について説明できる 3. 健康障害や医療行為が子どもと家族に及ぼす影響を具体的に述べるができる 4. 子どもの権利を尊重した看護を考えることができる 5. 入院・治療する子どもの成長発達や病態、家族の状況を考慮した安心・安全な看護を実践することができる		評価の方法 と基準	到達目標に対する達成度を、実習状況・実習記録80%、課題レポート20%で評価する。		
事前・ 事後学習	事前学習：ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ、小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ既習知識・技術を復習し、小児の成長発達や小児への関わり方について必要な学習・練習をしておく 事後学習：実習における学びと自己の振り返りに基づき、各自で必要な事後学習やまとめを行う					
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 第7版		中野綾美	メディカ出版	2023年	
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2) 小児看護技術 第5版		中野綾美	メディカ出版	2023年	
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 第3版		中野綾美	メディカ出版	2022年	
参考書	小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版		奈良間美保他	医学書院 e テキスト	2020年	
	小児看護学[2]小児臨床看護各論 第14版		奈良間美保他	医学書院 e テキスト	2020年	
備考	看護師として病院での実務経験を有する教員が指導を行う。					
週	授業スケジュール・内容					
	保育所および小児病棟で1週間ずつ合計2週間実習する。					
1	【1週目】保育所実習 子どもの成長発達に合わせた安全・コミュニケーションとセルフケア支援 1) 実習スケジュール (1日目) 臨地実習：オリエンテーション (2～4日目) 臨地実習：乳児クラス、3歳未満児、3歳以上児の各クラスに1日ずつ入る (5日目) 学内実習：実習の振り返り、学びの共有・統合、病棟実習に向けての準備・技術練習など 2) 実習方法 ・ クラスに入り、身体的・心理的・社会的成長・発達の特徴を捉えるため、子どもを観察する。 ・ 子どもの月年齢に合った遊び・日常生活援助などを見学・実施する。 ・ 絵本の読み聞かせの実施計画を立て、いずれかのクラスで見学・実施する。 ・ 環境づくり、感染対策、安全対策、子どもの体調不良やケガの際の対応、保護者との関わりなどについても保育士や看護師から学ぶ。					

【2週目】小児病棟実習 受け持ち患児・家族への看護過程の展開

1) 実習スケジュール

(6日目) 臨地実習：病棟オリエンテーション、受け持ち患児挨拶、受け持ち患児の情報収集

(7～9日目) 臨地実習：看護過程の展開、カンファレンス

看護ケアの見学（シャドウイング）および実施

(10日目) 臨地/学内実習：実習の振り返り、学びの共有・統合など

2) 実習方法

2

- ・受け持ち患児・家族とのコミュニケーションを図る。
- ・受け持ち患児・家族、記録物や看護師・主治医からの情報をもとに、発達段階・健康障害をアセスメントし、看護問題を抽出する。
- ・看護上の問題ごとに関連要因を統合し、看護目標・計画を挙げる。
- ・看護目標をもとに、日々の目標と行動計画を立案し、看護ケアを実施する。
看護ケアは担当看護師や指導者、教員とともに見学または実施する。
- ・学びたい小児看護技術等は事前学習しておく。
受け持ち患児で経験できない場合、機会があれば積極的に見学・実施する。

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
救急看護	必修科目	1	佐藤 亜紀	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授 業 概 要	さまざまな状況で突発的に生じる身体の疾患や損傷を受けた人を理解し、救急看護の特徴および看護の展開について学ぶ。対象の理解では緊急度と重症度の判断や、生体反応および心理的特徴を理解し、全身の観察とアセスメントの視点を学ぶ。初療室における初期対応と感染予防策を学び、意識障害やショックなどの主要な病態に対する救急処置と看護を学ぶ。また、ファーストエイドを含む病院前救護についても学ぶとともに、救急医療及び看護を取り巻く医療体制を理解する。			
到達目標	1. 救急医療の対象と場の患者の特徴について説明できる 2. 緊急度と重症度の判断のために必要なアセスメントができる 3. 救急の病態を理解し、初期対応と看護について説明できる	評価の方法と基準	「定期試験」80% 「事前・事後テスト」10% 「レポート」10%	
事後学習	事前学習：各単元のテーマに関連する教科書の頁を熟読する 事後学習：各授業で配布された資料および教科書の頁を再読およびe-ラーニングの確認テスト			
教科書	成人看護学 急性期看護II 救急看護改訂第2版	佐藤まゆみ/林直子	南江堂	2015年
	系統看護学講座 別巻 救急看護学	山勢博彰 他	医学書院eテキスト	2023年
参考書				
備考	病院で急性期看護、救急看護の実務経験のある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	救急医療の動向および救急看護の対象と場	日本の救急医療の動向と救急医療体制について 救急医療の対象と場の特徴について
2	病院前救護・BLS	メディカルコントロールと病院前救護活動とBLSの実践について
3	救急患者のアセスメント	救急患者のアセスメントと視点と重症度、緊急度の判断 院内トリアージについて
4	救急搬送された患者の看護(1)意識障害	意識障害で搬送された患者のアセスメントと救急看護
5	救急搬送された患者の看護(2)腹痛	急性腹症で搬送された患者のアセスメントと救急看護
6	救急認定看護師の看護活動	救急認定看護師の活動の実際
7	救急搬送された患者の看護(3)急性中毒	薬物中毒の症状と看護について
8	科目のまとめ	救急事例の看護を検討する

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当教員名	担当形態
災害看護	選択科目	1	末永 陽子	単独
科 目	養護に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）			

授業概要	災害の種類と被害・疾病の特徴や災害時に看護職が果たす役割、多職種との連携、災害の準備期から発災直後および中・長期に渡り必要となる看護活動について学習する。災害派遣医療チーム（DMAT；Disaster Medical Assistance Team）の活動や、災害時のトリアージ、災害時の倫理的問題の実際を学び、災害看護の理解を深める。災害直後・初期に発生する人々のニーズと健康問題の理解、被災者にもたらす中・長期的な身体的・心理的・社会的な影響と看護の役割について考察する。			
到達目標	1. 災害と災害時の医療活動の基本的概念について理解できる 2. 災害時の医療救護活動のフェーズと各期の看護について理解できる 3. 自然災害による被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる 4. 災害時に特別に配慮が必要な人々の理解と具体的な看護援助について理解できる 5. 被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解できる 6. 国内外の災害時の保健医療を理解できる	評価の方法と基準	「定期試験」60％ 「事前・事後テスト」40％	
事前、事後学習	授業内の課題の他、事前学習としてテキストの該当箇所を熟読する。事後に授業の復習を行う。			
教科書参考書備考	災害看護 改訂第4版	酒井明子・増野園恵	南江堂	2023年
	看護師としての実務経験のある教員が行う授業です。			

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	災害看護の概要	災害および災害看護の定義、災害看護の歴史、災害に伴う生活・健康問題と、フェーズに応じた災害時の保健医療活動の原則
2	災害時の医療①	災害時の疾病構造と医療救護活動の原則と実際、医療機関が被災した時の対応
3	災害時の医療②	トリアージの実際、応急救護の実際
4	災害時の看護①	自然災害時の被災者の生活・健康問題の特徴、被災者の健康問題のアセスメント方法
5	災害時の看護②	避難所・仮設住宅における看護活動
6	災害時に支援優先度の高い人々への看護	病気や障がいのある人、高齢者への看護
7	災害時に支援優先度の高い人々への看護	妊産婦、小児、外国人への看護
8	災害時の感染症への看護	感染症パンデミックにおける多職種連携と患者・家族への援助
9	災害支援者への影響	災害で活動する支援者への影響、後方支援者への影響
10	災害中長期の看護	被災地における中・長期的支援の活動
11	災害時の精神面への看護	救援者のストレスと倫理的ジレンマ、被災地におけるDMORT活動
12	海外における災害医療活動	国際緊急援助隊の活動
13	自然災害への備え	地域、企業、学校等における自然災害への備え（避難所、帰宅困難者一時滞在施設）
14	人為災害への備え	テロ、マスギャザリング、放射線災害等への備え
15	災害への備え	災害準備期の活動、看護師への災害看護教育

授業科目名： 日本国憲法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：桧垣 宏太 担当形態：単独
科 目		教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 日本国憲法が定める基本的人権の保障内容と限界について理解・解説できるようになること。 ・ 日本国憲法が定める統治機構に関する規定について理解・説明できるようになること。				
授業の概要 日本国憲法について、法学の観点から学習する。				
授業計画 第1回：イントロダクション、講義の進め方について、「憲法」とはそもそも何か、歴史。 第2回：憲法13条、13条の法規範性、人格権、「私生活上の自由」等。 第3回：憲法14条、平等権。 第4回：憲法19条、思想良心の自由。 第5回：憲法20条・89条、信教の自由、政権分離。 第6回：憲法21条、表現の自由、検閲禁止、通信の秘密。 第7回：憲法18条、31～40条、身体の自由、刑事手続上の諸人権。 第8回：憲法22条1項・29条、25条、職業の自由と財産権。 第9回：憲法26条、教育を受ける権利。 第10回：憲法15条、選挙権。 第11回：憲法1～8条、天皇制。 第12回：憲法9条、平和主義。 第13回：憲法41条～64条、国会の機能と権能。 第14回：憲法65条～75条、内閣及び他の行政機関の機能と権能。 第15回：憲法76条～82条、裁判所の機能と権能。				
定期試験				
テキスト 立憲主義と日本国憲法法〔第5版〕 高橋和之（著） 有斐閣 2020年 ポケット六法〔令和6年版〕 佐伯仁志ほか編集代表 有斐閣 2023年				
参考書・参考資料等 憲法判例を読む 芦部信喜（著） 岩波書店 1987年 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第7版〕 長谷部恭男、石川健治、穴戸常寿（編） 有斐閣 2019年				
学生に対する評価 定期試験100%				

授業科目名： スポーツ実践A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松崎 守利 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 徐々に運動量を高めてゆきながら、大学受験で低下した体力の回復を図る。さらに、スポーツの実践を通して、学友との交流機会を活かしコミュニケーションを深める。また、受験から解放された自由を謳歌しつつ、「健康になりま帳」への生活記録を通して、規則正しい生活習慣を守る態度を養う。			
授業の概要 本講は、様々なスポーツの実践を通して健康維持・増進方法並びにコミュニケーション能力を高めることを目的とする。生涯にわたりスポーツに親しむことは、健康づくりにおいては非常に重要となる。そのため授業では、健康づくりのための科学的理論に基づいた運動方法を習得する。またコミュニケーション能力向上のために、数種目のチームスポーツを実践する。 さらに、大学生活をより楽しく、充実したものに導くために、その基本となる健康習慣の獲得に向けたプログラムも合わせて実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （授業概要の説明、授業の受講ルール、班分け、健康になりま帳の記録と活用方法の説明） 第2回：体ほぐし運動、チームビルディング（チーム力を高めるスポーツ実践） 第3回：身体コーディネーション1（柔軟性を高める身体コーディネーション） 第4回：身体コーディネーション2（トレーニング機器の使用法と身体トレーニング） 第5回：身体コーディネーション3（協調性を高めるトレーニング） 第6回：形態・体力測定1 （形態測定、筋力・筋持久力・瞬発力・敏捷性・柔軟性・投力・走力の測定） 第7回：形態・体力測定2（全身持久力の測定） 第8回：チームスポーツ① 1回目（サッカー） 第9回：チームスポーツ① 2回目（サッカー） 第10回：チームスポーツ② 1回目（バスケットボール） 第11回：チームスポーツ② 2回目（バスケットボール） 第12回：チームスポーツ③ 1回目（アルティメット） 第13回：チームスポーツ③ 2回目（アルティメット） 第14回：チームスポーツ④ 1回目（卓球） 第15回：チームスポーツ④ 2回目 まとめ（卓球）			
テキスト 健康になりま帳（授業で配付する）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業への積極的な参加80%、レポート20%			

授業科目名： 健康と運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松崎 守利 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 体づくりや健康増進、生活習慣病予防・改善のための運動の理論と実践方法を理解するとともに、日常生活においては科学的理論に基づいた運動習慣を獲得する。			
授業の概要 少子高齢化が進展する中で、健康に生きることが各個人の幸せにとどまらず、社会全体の幸福にも寄与する。健康に生きるためには、適度な運動、適切な栄養・休養が重要となる。とりわけ、運動を習慣化し、生涯にわたりスポーツに親しむことは、よりよく生きる上でも欠かせない要素である。本講義では、身体の構造や機能、エネルギー代謝など運動時の生理的反応について理解し、体づくりや健康増進、生活習慣病予防・改善のための科学的根拠に基づいた運動の理論を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業内容の説明、生活習慣調査など） 第2回：現在の健康意識（1回目の調査結果から、今後の健康づくりへの取り組みについて） 第3回：運動の仕組み1（エネルギー発生の仕組み） 第4回：運動の仕組み2（栄養素とエネルギー発生の仕組み） 第5回：運動の仕組み3（運動強度の違いによる生体内の変化1 血中乳酸値、心拍数） 第6回：運動の仕組み4（運動強度の違いによる生体内の変化2 酸素摂取量） 第7回：秋学期前半の振り返り（健康づくりに必要な生理学的な知識について振り返りを行う） 第8回：健康と運動1（体力と健康の関係） 第9回：健康と運動2（健康づくりのための運動処方、運動強度の計算） 第10回：健康と運動3（健康づくりの指針） 第11回：健康と運動4（筋力トレーニングの運動処方） 第12回：生活習慣病の危険因子1（肥満の指標（BMI・体脂肪率・ウエスト）） 第13回：生活習慣病の危険因子2（科学的ダイエット方法） 第14回：生活習慣病の危険因子3（健康的な生活習慣） 第15回：まとめ（これまでの振り返りを行い、運動、栄養、休養のバランスがとれた健康づくりとは何かを考える。			
定期試験			
テキスト 健康生活と運動 小笠原正志（編） エスアイエス			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業への積極的な参加10%、レポート20%、定期試験70%			

授業科目名：英語 I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： コレット ポール
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1 話し言葉に慣れること			
2 教科書で紹介された単語やフレーズが使えること			
3 連続発音の基礎を理解すること			
4 英語で喋ることにに対して自信を持つこと			
5 様々な場面において自分の思いを英語で伝えること			
授業の概要			
英会話力を向上させるためのクラスです。ネイティブスピーカーのように英語を話すことを目標に、明晰なトレーニングを行います。日本文化と西洋文化における会話の仕方の違いを理解し、より効果的なコミュニケーションの方法を学びます。また、語彙の習得、及び、クラスメートと日常生活のトピック（人と知り合う、日常生活、出身地、旅行など）について話すことに多くの授業時間を割きます。受講生のみなさんが熱心に取り組めば、このコースが終了する頃には、受講前に比べてより流暢に、より正確に、より複雑な英語を話すことができるようになるでしょう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（コースの説明と概要；3つの「ゴールデン・ルール」）			
第2回：Unit 1-1（自己紹介をする（その1） 情報を共有する。）			
第3回：Unit 1-2（復習 自己紹介をする（Part 2） 学校・勉強について話す。）			
第4回：Unit 1-3（復習 自己紹介をする（Part 3） アルバイトについて話す。）			
第5回：Unit 2-1（日常生活（Part 1） 日々の決まり事について話す。）			
第6回：Unit 2-2（復習 日常生活（Part 2） 忙しさ(スケジュール)について話す。）			
第7回：Unit 2-3（復習 日常生活（Part 3） 授業や家事について話す。）			
第8回：スピーキングテスト 1・振り返り			
第9回：Unit 3-1（故郷（Part 1） 場所の紹介と説明。）			
第10回：Unit 3-2（復習 故郷（Part 2） 場所について詳しく説明する。）			
第11回：Unit 3-3（復習 故郷（Part 3） 将来に希望について話す。）			
第12回：Unit 4-1（旅行（Part 1） 過去の経験について話す。）			
第13回：Unit 4-2（復習 旅行（Part 2） 今後の旅行計画や希望について話す。）			
第14回：Unit 4-3（復習 旅行（Part 3） 旅行計画についてアドバイスや推薦をする。）			
第15回：スピーキングテスト 2・振り返り			
定期試験			
テキスト			
Conversations in Class (3rd Edition). J. Talandis Jr. & B. Vannieu. Alma Publishing.			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
授業への取組(発言等)24%、小テスト42%、宿題10%、定期試験24%、			

授業科目名：英語 I d	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： コレット ポール
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1 話し言葉に慣れること			
2 教科書で紹介された単語やフレーズが使えること			
3 連続発音の基礎を理解すること			
4 英語で喋ることにに対して自信を持つこと			
5 様々な場面において自分の思いを英語で伝えること			
授業の概要			
英語 I d は春学期の英語 I b の続きに当たります。この授業を受講する前に、英語 I bを受講することが望ましい。英語 I dでは、英語 I bで使った教科書の後半を用いて、英語で話すことにさらに自信を持ち、英語での“oral communication skills”がさらに向上するために不可欠なリスニング、話し言葉、発音と話す練習を引き続き行います。英語 I dでは、特に自分の感情やコミュニケーション意図をより正確に表すため表現力を高めることを一つの大きな目標とします。 最初の授業に教科書を必ずご持参ください。			
授業計画			
第 1 回：Introductions (コースの紹介とユニット1~4の復習)			
第 2 回：Unit 5-1 (余暇の過ごし方 (Part 1) 過去の出来事について話す。)			
第 3 回：Unit 5-2 (復習 余暇の過ごし方 (Part 2) 普段の活動について話す。)			
第 4 回：Unit 5-3 (復習 余暇の過ごし方 (Part 3) 趣味と関心事について話す。)			
第 5 回：Unit 6-1 (エンターテイメント (Part 1) リラックス方法について話す。)			
第 6 回：Unit 6-2 (復習 エンターテイメント (Part 2) 好きなものを説明する、意見を述べる。)			
第 7 回：Unit 6-3 (復習 エンターテイメント (Part 3) 自分の好みについて話す。)			
第 8 回：スピーキングテスト1・振り返り			
第 9 回：Unit 7-1 (食べ物 (Part 1) 食の選択について話す。)			
第 1 0 回：Unit 7-2 (復習 食べ物 (Part 2) 好きなもの、嫌いなもの。それに対する質問。)			
第 1 1 回：Unit 7-3 (復習 食べ物 (Part 3) 過去の経験について話す。)			
第 1 2 回：Unit 8-1 (将来 (Part 1) 今後の計画と希望について話す。)			
第 1 3 回：Unit 8-2 (復習 将来 (Part 2) 結婚について話す。)			
第 1 4 回：Unit 8-3 (復習 将来 (Part 3) 過去と現在の夢。)			
第 1 5 回：スピーキングテスト2・振り返り			
定期試験			
テキスト			
Conversations in Class (3rd Edition). J. Talandis Jr, & B. Vannieu. Alma Publishing.			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
授業への取組(発言等)24%、小テスト42%、宿題10%、定期試験24%			

授業科目名： コンピュータ活用Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木 淳 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
①卒業論文作成やプレゼンテーションに必要な情報技術およびリテラシーを身につける。 ②インターネットを安全に活用するために、必要なマナーやセキュリティに関する知識を身につける。 ③高度情報化社会に対応できる態度を身につける。			
授業の概要			
大学における学習を支える基礎技能としてのコンピュータリテラシーを身に付けることを目的とした実習科目です。Windowsパソコンを道具として自在に活用する能力を身に付けるだけでなく、ネットワーク・エチケットを理解することも目的とします。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業内容・評価方法等の説明、タッチタイピング） 第2回：インターネットのしくみ（インターネットの基礎知識、本学Webメールによる受送信） 第3回：インターネットセキュリティ・Webページ（Web検索、インターネット社会と著作権） 第4回：ワープロソフトの基礎1（Wordによる文書作成） 第5回：ワープロソフトの基礎2（Word文書への表の作成・図の挿入） 第6回：ワープロソフトの応用1（Wordによる文書校正） 第7回：ワープロソフトの応用2（Word文書のレビュー） 第8回：表計算ソフトの基礎1（Excelによるデータ入力・編集） 第9回：表計算ソフトの基礎2（Excelを用いた表作成） 第10回：表計算ソフトの基礎3（Excelの関数の利用） 第11回：表計算ソフトの応用1（Excelを用いたグラフ作成） 第12回：表計算ソフトの応用2（データベースの利用） 第13回：プレゼンテーションソフトの基礎（PowerPointによるスライド作成） 第14回：プレゼンテーションソフトの活用（PowerPointを使ったプレゼンテーション） 第15回：全体のまとめ（総合演習）			
テキスト			
30時間アカデミック Office2019 杉本くみ子・大澤栄子（著） 実教出版			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
平常点（60％）、授業中に示す課題（40％）			

授業科目名： コンピュータ活用Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木 淳 担当形態：単独
科 目	教育職員免許状施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 ①Excelを用いて、データを整理し、表やグラフを作成できるようになること。 ②データを読み取る能力を身につけること。 ③統計学の基礎知識を生かして、基本的なデータの分析ができるようになること。			
授業の概要 この科目ではコンピュータ活用Ⅰで獲得したコンピュータリテラシーを基礎にして、現実の経済データを使いながら、Excelで表や簡単なグラフを作成するところから、より複雑なグラフ、統計学の知識を生かした分析まで学ぶ科目です。データを扱う能力、読み取る能力、そして統計学の基礎を身につけることが目標です。			
授業計画 第1回：ガイダンスとExcelの復習（本科目のガイダンス。Excelの基本の復習。） 第2回：Excelによる表の作成（データの探し方。表の作成。） 第3回：棒グラフ（棒グラフの作成。大小関係の比較。） 第4回：円グラフ（円グラフの作成。比率の比較。） 第5回：折れ線グラフ（折れ線グラフの作成。時系列データの変化を見る。） 第6回：積み上げ棒グラフ（積み上げ棒グラフの作成。項目ごとの値とその比率を見る。） 第7回：複合グラフ（複合グラフの作成。パレート図を描く。重要項目の洗い出し。） 第8回：ヒストグラム（度数分布表。ヒストグラム。データ分布の把握。） 第9回：データのばらつき（標準偏差と変動係数。） 第10回：データのばらつきの視覚化（箱ひげ図の作成。） 第11回：2つの変数の関係（散布図。相関係数。） 第12回：不均等度をとらえる（ローレンツ曲線。ジニ係数。） 第13回：応用1（データから日本経済の成長をとらえる。） 第14回：応用2（データから財政の現状について知る。） 第15回：まとめ			
テキスト Excelで読み取る 経済データ分析 橋本紀子（著） 新世社			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点（40％）、課題（60％）			

授業科目名： 教育原理・教育課程論	教員の免許状取得 のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木司 静屋智 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ①教育の理念や基本的概念に関して学び理解を深める ②教育の成立ち及び歴史や思想に関して学び理解する ③教育課程の意義やその歴史及び学習指導要領の変遷から時代の学校教育の方向性を知る ④カリキュラムづくりの理論と実際及びその開発と評価等について学び理解する (カリキュラム・マネジメントの考え方と学校改善の実際)			
授業の概要 本授業は、教育職員免許法に定める「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」と「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む科目であり、次の5つの柱で構成される。 ①学校、教育の成立要件 ②近代教育成立と日本における公教育制度の展開 ③教育・学校を巡る諸問題 ④教育課程の意義と学校教育の現状と課題及び、これからの教育の在り方 ⑤教育関連法制と教員養成			
授業計画 第 1回：プロローグ 教育とは？ 学校とは？(担当：佐々木) 第 2回：教育の意義と理念や目的(担当：佐々木) 第 3回：教育の歴史(1) 古代から中世の教育思想と学校の成立(担当：佐々木) 第 4回：教育の歴史(2) 近代の教育思想と子ども観(担当：佐々木) 第 5回：日本教育の歴史(1) 現代の教育思想と公教育制度(担当：佐々木) 第 6回：日本教育の歴史(2) 日本の近代化と公教育制度の成立(担当：佐々木) 第 7回：わが国の教育や学校の現状と課題1(不登校、いじめ、スマホ等)(担当：静屋) 第 8回：わが国の教育や学校の現状と課題2(学力、特別支援教育等)(担当：佐々木) 第 9回：学習指導要領とその変遷(戦後のカリキュラム改革)(担当：静屋) 第10回：教育課程の意義と成立過程(カリキュラム類型とこれからの方向性)(担当：静屋) 第11回：特色あるカリキュラムづくり1(3層4領域カリキュラム等)(担当：静屋) 第12回：特色あるカリキュラムづくり2(カリマネの考え方と学校改善)(担当：静屋) 第13回：社会に開かれた教育課程の実現に向けて(担当：静屋) 第14回：教育課程の評価と改善(カリキュラム・マネジメント)(担当：静屋) 第15回：地域とともにある学校とカリキュラム及び総括(担当：静屋) 定期試験は実施しない。			
テキスト カリキュラム・マネジメントの理論と方法(関 浩和 著 兵庫教育大学発行)			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(文部科学省)、高等学校学習指導要領(文部科学省) 中学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省)、高等学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省)			
学生に対する評価 事前課題(20%) 授業レポート(20%) 授業への参画意欲(20%) 前半・後半課題論文(40%)			

授業科目名：教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小西 哲也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①学校教育及び教職の意義と重要性、教師に求められる資質・能力、教職の魅力や教師としての心構え等を社会の変化を踏まえ理解する。			
②複雑で多様化する課題解決に向けての「チーム学校」としての運営、地域とともにある学校づくり、社会に開かれた教育課程の実現等を学ぶなかで、これからの時代を生き抜くための学校の在り方を理解する。			
授業の概要			
激動の時代、子供を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い教師や学校の使命は一層重要性を増しています。授業を通して、教職の意義や役割を理解するために、今日の学校教育が抱える課題と主たる解決の担い手となる教員の役割や責任について概観するとともに、国や地方の教育施策の動向からこれからの時代の教育の在り方を学びます。			
少子高齢化という重い社会問題は地方ほど比重が大きく「学校を核としたまちづくり」が求められるようになりました。社会の担い手をあずかる学校はこの要求をいかに理解し具現化を図るのかという課題を背負っているようにも見えます。コミュニティ・スクールの努力義務化に代表される地域と学校の協働が目指すものとは何でしょうか。出口教育として揶揄されることもある進学教育だけではこれからの教育は語れません。地域を愛し地域を忘れない地域の担い手をいかに育むのかという現代的課題を踏まえつつ教職の魅力を理解しながら、①教師の仕事の特質 ②教師の課題解決に資する考え方と行動 ③教職に関わる改革の特質と課題等について学びます。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーションとイントロ 20年後の社会は？「学校は今のままでいいの？」 現代社会の教育課題と教師 学校とは？を問う「DVD:世界の果ての通学路」			
第 2 回：「生きる力Ⅰ」 ～1996答申 PISA OECD 明治、戦前・戦後における学校教育。 教員養成の歴史的変遷			
第 3 回：「生きる力Ⅱ」 ～どこで身に付けるのか 健やかな成長のために必要な資質・能力は ジェームズ・ハックマン（シカゴ大学）理論に学ぶ			
第 4 回：教師の仕事と役割 ～学び重視のカリキュラムへの変革 誰のための学びなのか 授業で勝負というけれど・・・授業も時代の変化に対応する			
第 5 回：教師に求められる資質・能力 ～必要な指導力（教科指導、教科外指導、生徒理解等々） 予測困難な時代の教師像 協働できる教師（チーム学校） 開かれた学校とは			
第 6 回：子供の現状 ～子供たちの変化（生活と意識の変化・・・スマホ、いじめ、不登校等々） 高校生の意識から 子供白書・OECD・ユネスコ等のデータに学ぶ			
第 7 回：社会の変化 ～学校教育を変える背景（経済政治 society5.0に備えて、2045問題等々） 高度経済成長時代からの日本の現状 世界の現状との比較から日本教育を考える			
第 8 回：教育改革の動向と学習指導要領の変遷 ～社会状況を反映した改定だが・・・・・・ 第3の教育改革の行方と変わる学校教育 イギリスの教育改革			
第 9 回：教師の仕事Ⅰ ～教員の日（GT） 学校の安全・安心 リスクマネジメントとクライシ			

スマネジメント 教員の力量形成と研修制度、教師のメンタルヘルス ライフワークバランス 働き方改革の行方 第10回：教師の仕事Ⅱ ～法律から見る義務、権利、服務 これからの社会と教師 フィンランドのPGM探求的専門性に学ぶ 等々 日本国憲法・教育基本法・児童の権利条約と子供の権利 第11回：喫緊の課題 ～個別最適化 GIGAスクール 特別支援教育の充実 不登校対策等々 1条校だけではない子供の学び 学校を選ばない子供に寄り添う 第12回：コミュニティ・スクールⅠ ～開かれた学校から地域とともにある学校へ なぜ、コミュニティ・スクールなのか 第13回：コミュニティ・スクールⅡ ～チーム学校の目指すもの、社会に開かれた教育課程実現へ 働き甲斐のある学校づくりは地域から信頼される学校だからできる 開かれた学校経営 第14回：教職観 ～学び続ける教師 教職の魅力 激動の時代を生きる教師像 予測困難な時代に求められる新しい教師像 学生時代に体験してほしいファシリテーターとして教える魅力 第15回：総括 ～これからの時代の学校 学校を核としたまちづくりとは 日本社会で生き残る地域と学校 教師という仕事
テキスト これからの教職論（ナカニシヤ出版）
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（文部科学省）、高等学校学習指導要領（文部科学省）、奇跡の学校（風間書房）、日本社会の変動と教育政策（放送大学叢書）
学生に対する評価 レポート30% 毎時間の振り返り35% 授業への参画度（発表・協議・協働）35%

授業科目名：教育行政		教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：小西 哲也
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：近代教育における成果や課題を学び、学校の存在意義や教育が担うべき使命等について時代の変化を踏まえつつ理解する。				
到達目標：①公教育や教育行政に係る基本を理解する。				
②学校教育や教育行政をめぐる現代的な課題や論点について、資料やデータから意見表明できる。				
③教育改革を通じた教育環境の変化を理解し、地域とともにある学校づくりや学校安全の重要性など教育のあるべき姿を目的、答申、法律等を踏まえ理解する。				
授業の概要				
教育をめぐる現代的な課題を題材に関連する法制度や教育改革に係る論点を理解しながら、これからの公教育を考える上で重要となる学校と地域の連携を基本とした地域とともにある学校の実現に向けた学校経営とそのことに伴走し得る教育行政の在り方を学ぶ。また、社会変化の激しい今だからこそ「学校とは何か」「学校は誰のものか」という根源的な問いに向き合うことでこれからの時代の教育を理解する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス、イントロダクション学校の意義と役割				
第2回：近代公教育制度の誕生				
第3回：日本の学校制度の展開				
第4回：戦後日本の学校制度の展開				
第5回：教育法制と教育行政				
第6回：国の教育行政と学校				
第7回：県の教育行政と学校				
第8回：市町村の教育行政と学校				
第9回：教育課程行政、教科書行政				
第10回：学校組織と経営、地域とともにある学校、教職員を支える教育行政				
第11回：学校安全と危機管理及び地域防災と学校				
第12回：コミュニティ・スクールにおける社会に開かれた教育課程の実現				
第13回：コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の成長を支える教育行政				
第14回：コミュニティ・スクールの在り方（時代背景と学校教育の方向性）				
第15回：教育行政による学校支援と教育改革の行方				
定期試験				
テキスト				
「学校の制度と経営」ミネルバ教職専門シリーズ4				
「奇跡の学校」風間書房				
参考書・参考資料等				
「日本社会の変動と教育政策」放送大学叢書				
学生に対する評価				
・毎時の授業終わりに提示する課題 20％				
・グループワークへの参加意欲（協調性・発言・傾聴態度等）30％				
・プレゼンと質問等授業参画意欲 20％				
・4回、8回、12回終了時に求める課題論文（3回）20％				
・振り返りレポート10％				

授業科目名： 教育社会学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川 朝子 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業では、教育社会学の基礎的な概念や理論についての理解を深めつつ、現代社会における教育に関する現象や課題について教育社会的視点で深く考察できる力を養うことを目的とする。				
授業の概要				
教育をめぐる現代的課題は、学校や教室の中だけで解決できる問題ではなく、社会との関係を切り離して考えることはできない。教育社会学の視点を身につけることで、これまで個人が教育に対して有してきた「常識」を相対化することが可能となる。本授業では、学校教育におけるダイバーシティやインクルージョンが叫ばれる昨今、社会的マイノリティの子どもへの教育の現状や課題の具体的研究から、現代社会における教育について多角的角度から批判的に考える。				
授業計画				
第1回：ガイダンス				
第2回：教職と教育社会学				
第3回：教師の社会学（教師の役割、バーンアウトなど）				
第4回：教育と学校文化（かくれたカリキュラムなど）				
第5回：ダイバーシティと教育（多文化教育）				
第6回：教育における排除と包摂				
第7回：マイノリティと教育（エスニック・マイノリティ、性的マイノリティ、障害者教育）				
第8回：外国につながる子どもの教育課題				
第9回：外国につながる子どもの日本語教育				
第10回：外国につながる子どものアイデンティティ形成				
第11回：外国につながる子どものキャリア形成				
第12回：教育社会的視点から議論する①：いじめ問題				
第13回：教育社会的視点から議論する②：不登校問題				
第14回：教育社会的視点から議論する③：ジェンダー／セクシュアリティと教育				
第15回：これまでの議論のまとめ				
テキスト 久富善之・長谷川裕編『[教師教育テキストシリーズ5] 教育社会学 第二版』2019年、学文社				
参考書・参考資料等				
石戸教嗣編『新版 教育社会学を学ぶ人のために』2013年、世界思想社				
酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』2018年、ミネルヴァ書房				
片山悠樹ら編『半径5メートルからの教育社会学』2020年、大月書店				
学生に対する評価				
各回の学びや疑問点を言語化したログシートの提出（30%）、第12回～14回に向けた議論のための準備レポート（30%）、期末レポート（40%）				

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原慎二 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育心理学における理論や概念に関する知識を得て、その説明できる。 2. 教育者・支援者として学習内容を教育実践に活用するための基礎的スキルを獲得する。			
授業の概要			
教職を目指す上で必要な教育心理学に関する知識と理解を獲得する。			
授業計画			
第1回：教育心理学と学校教育：エビデンスと理論に基づく教育 第2回：発達と教育 第3回：乳幼児期から青年期の人格と社会性の発達 第4回：乳幼児期から青年期の認知発達 第5回：子どもの特性理解(1)：知的能力の発達と測定 第6回：子どもの特性理解(2)：パーソナリティの理論と測定 第7回：人間の認知と学習：認知心理学と学習心理学 第8回：内発的動機づけと外発的動機づけ 第9回：自己効力感と自尊感情 第10回：集団の心理学 第11回：教育評価と主体的学習者の育成 第12回：教育課題への対応(1)：発達障害・愛着・不適応等への対応 第13回：教育課題への対応(2)：個別最適な学び 第14回：学校教育のこれから：包括的支援 第15回：学習のまとめと定期試験			
テキスト			
守 一雄 2019「教育課程コアカリキュラムに対応した教育心理学」松本大学出版会			
参考書・参考資料等			
随時、必要な資料を配付する			
学生に対する評価			
リアクションペーパー・課題の提出状況と内容（45％），定期試験の点数（55％）			

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田（中村）麻美子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができる			
・ 関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する			
・ 障害をはじめとする様々な教育的ニーズを抱える子どもの実態把握や支援方法について具体的に検討することができる			
授業の概要			
本講義では、障害をはじめとする様々な教育的ニーズを抱える子どもを対象にした実態把握や支援方法について学ぶ。加えて、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度・政策システムの理解や連携方法などを含めた支援体制構築について学ぶことで、子どもの教育的ニーズに組織的に対応していくための必要な知識・技能を習得する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 本授業の目的と方法について確認し、スケジュール確認等を含めたガイダンスの実施			
第2回：特別支援教育の理念や制度 インクルーシブ教育システムに関する基本的内容及び教育課程等を含む制度に関する講義			
第3回：特別支援教育の教育課程① 特別支援学校の対象となる視・聴・知・肢・病の5領域と教育課程編成（自立活動など）に関する講義			
第4回：特別支援教育の教育課程② 特別支援学級、通級指導教室の対象と教育課程編成に関する講義			
第5回：教育的ニーズを把握するためのアセスメント アセスメントの重要性と実態把握のための尺度等に関する講義			
第6回：環境によるニーズがある子どもの理解と支援 貧困・虐待などを含む環境要因を含めたニーズのある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義			
第7回：身体面のニーズがある子どもの理解と支援 発達性強調運動障害（DCD）などを含む身体面にニーズのある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義			
第8回：ADHD傾向のある子どもの理解と支援 診断基準を中心とした注意欠如多動症（ADHD）の定義とその傾向のある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義			
第9回：ASD傾向のある子どもの理解と支援 診断基準を中心とした自閉スペクトラム症（ASD）			

の定義とその傾向のある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義

第10回：SLD傾向のある子どもの理解と理解と支援 診断基準を中心とした限局的学習症（SLD）の定義とその傾向のある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義

第11回：生活習慣にニーズがある子どもの理解と支援 ゲーム依存症などを含めた生活習慣にニーズのある子どもの基本的理解と具体的支援に関する講義

第12回：学級経営 成功事例を参考に、学級経営の重要性と方法に関する講義

第13回：支援体制の構築と連携 特別支援教育コーディネーターの活用及び関連機関、家庭との連携に関する講義及び事例検討

第14回：事例分析 事例分析演習

第15回：個別の教育プランの作成 個別の教育プランの作成演習

定期試験は実施しない。

テキスト

教員が作成した資料を、その都度配布する

参考書・参考資料等

韓昌完（2019）『その子、発達障害ではありません IN-Childの奇跡』 さくら舎

学生に対する評価

授業への取組（質問や発言内容などを指す。）（50%）、その他（その他として、発表を評価対象とする。発表は授業内でのチームまたは個人での発表内容を指す。）（50%）

授業科目名： 道徳教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古波蔵 香 担当形態：単独
科 目		・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標 ・中学校における道徳の指導法についての基礎的な理解を有している。 ・中学校各教科等の特質を理解して授業を構想することができる。 ・中学校各教科等の特質を理解して教材研究を適切に行うことができる。 ・教科外指導や学級経営、キャリア教育等に関する基礎的な理解を有している。				
授業の概要 道徳教育を支える基礎理論を学ぶとともに、中学校学習指導要領の「第1章 総則」および「第3章 特別の教科 道徳」に示された道徳教育の目標と内容、生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳科の指導方法について理解を深める。				
授業計画 第1回：オリエンテーション（本講義の進めかたならびに注意事項／道徳教育の動向） 第2回：道徳教育の歴史①（日本の中世～戦前までの道徳教育） 第3回：道徳教育の歴史②（日本の戦後～現代までの道徳教育） 第4回：道徳性の発達（子どもの発達と道徳教育） 第5回：道徳性と社会（道徳的思考・判断と権威） 第6回：特別の教科道徳の目標および評価 （学習指導要領における道徳科の位置づけ／他教科との連関／評価方法） 第7回：特別の教科道徳の内容および指導計画 （道徳科の内容項目確認／指導案作成／年間指導計画） 第8回：さまざまな授業論（道徳科の授業理論の検討） 第9回：教材開発の視点①（読み物資料の分析） 第10回：教材開発の視点②（道徳科の指導過程と発問） 第11回：授業づくりの試行①（グループ指導案作成） 第12回：授業づくりの試行②（グループ指導案作成） 第13回：模擬授業①（グループで作成した指導案をもとに模擬授業を行う） 第14回：模擬授業②（グループで作成した指導案をもとに模擬授業を行う） 第15回：道徳教育と平和教育（戦争の記憶と継承／メディアリテラシー） 定期試験				
テキスト 中学校学習指導要領（文部科学省） 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（文部科学省） 道徳教育の理論と実践 上地完治他 ミネルヴァ 書房				
参考書・参考資料等 道徳教育指導論 丸山恭司他 協同出版 ワークで学ぶ道徳教育【増補改訂版】 井藤元他 ナカニシヤ出版				
学生に対する評価 平常点(毎回の授業後に提出するミニレポート)30%、最終レポート40%、 授業時に作成する学習指導案30%				

授業科目名：総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：吉岡 一志 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間と特別活動の意義と内容及びこれらと教科等との関連を理論的に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを深める。			
授業の概要 自身の過去の経験を踏まえながら、総合的な学習の時間及び特別活動の意義と内容及びこれらと教科等との関連を理論的に理解する。さらに、理論を踏まえ、実践に向けた方法的視点を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：学校における総合及び特活の位置 第2回：総合的な学習の時間及び特別活動の今日的意義と目標 第3回：特別活動の内容（HR・生徒会活動・学校行事の特質）と方法 第4回：子ども集団の理論と特別活動の展開 第5回：特別活動と地域 第6回：「自己」をめぐる課題 第7回：「自己」をめぐる実践 第8回：子どもの主体性を引き出す指導法 第9回：話し合い学習の具体例 第10回：求められる教師像 第11回：総合的な学習の時間の事例①進路選択 第12回：総合的な学習の時間の事例②人間関係 第13回：総合的な学習の時間及び特別活動における評価 第14回：総合的な学習の時間の設計 第15回：学習成果の報告と振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 『学習指導要領 特別活動編』『学習指導要領 総合的な学習の時間編』			
学生に対する評価 総合的な学習の時間及び特別活動の意義と内容と、教科等との関連の理解、実践化のための方法的視点や具体的手立ての修得を、自主学習課題への取組み（50%）とレポート（50%）により評価する。			

授業科目名： 教育方法論（ICT活用含む）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田雅之 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教師として必要な教育方法の基本的原理を理解する。 ICTを活用した学習指導や校務の推進及び、生徒の情報活用能力を育成するための基礎的な知識・技能を身に付ける。				
授業の概要 学習指導要領の趣旨、教育課程編成上の留意点をふまえ、教育方法・技術にかかわる基礎理論を学習し学習指導案作成の基礎的技術を理解させるとともに、授業設計や授業改善の手法について検討し、実践的指導力の基本を養う。 ICTの活用の意義と理論を理解し、効果的に情報機器を活用した学習指導や校務の推進について学習する。生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）育成のための基礎的な指導法を学習する。				
授業計画 第1回：教育方法を学習する意義と授業目標 第2回：学習指導要領と教育課程の編成 第3回：教育の方法・技術の基礎理論 学習指導の多様な形態 第4回：学習者中心の授業設計 第5回：教育理論の思想と歴史 第6回：教育評価の基礎理論 第7回：教育評価の実践 第8回：ICTを活用した個別最適な学びと協調的な学び 第9回：インクルーシブな学習・学校外との連携へのICTの活用 第10回：ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第11回：学習プロセスデータを活用した評価の検討 第12回：遠隔・オンラインでの授業実践 第13回：校務の情報化 第14回：各教科の特性及び連携を目指したICTの活用 第15回：総括				
テキスト テキストとしてプリント教材（資料）を配布する。				
参考書・参考資料等 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省） A. コリンズ・R. ハルバーソン著『デジタル社会の学びのかたち』北大路書房（2012） P. グリフィン・B. マクゴー・E. ケア編『21世紀型スキル』北大路書房（2014） 牧田秀昭・秋田喜代美著『教える空間から学び合う空間へ』東洋館出版社（2014） 稲垣忠編著『教育の方法と技術』北大路書房（2020）				
学生に対する評価 最終レポート（50％）と授業内小レポート（第1回から14回）（50％）により総合的に評価する。				

授業科目名： 生徒指導		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中林浩子 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ：これからの社会を生き抜く力と全人的成長発達を促進する包括的生徒指導 到達目標				
1) 生徒に育むべき資質能力を理解し、生徒指導の意義や原理を説明できる。 2) すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、教育活 動全体を通して行う生徒指導について説明できる。 3) 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態とチーム学校としての校内外の多職種連携の在 り方を理解し、その意義とチームの在り方を説明できる。 4) いじめや人権等に関する法律を理解し、事例について、法的根拠を示しながら解決のプロ セスを具体的に提案できる。 5) 生徒理解のためのアセスメントや教育相談について基本的なポイントを押さえて、3次支 援におけるチーム支援会議の実施方法を説明できる。				
授業の概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質 や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活 動である。生徒指導の意義や原理の理解、子どもの人権や権利等の法的根拠、すべての児童・ 生徒を対象とした発達支持的生徒指導、個別の課題を抱える児童・生徒を対象とした課題予防 的生徒指導と困難課題対応的生徒指導、チーム学校等について実践事例を踏まえながら、他の 教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素 養を身に付ける。				
授業計画 第1回：学校教育における生徒指導の意義と役割：包括的生徒指導の在り方 第2回：生徒指導の3機能について：育てる生徒像 第3回：生徒指導と教育相談：信頼関係の構築と多面的生徒理解 第4回：教育課程と生徒指導：教科指導と生徒指導の一体化 第5回：生徒指導の方法①：集団育成と個別指導 第6回：生徒指導の方法②：集団育成の方法原理と個別指導の方法原理 第7回：いじめや暴力などを含む子どもの人権と生徒指導 第8回：事例で考えるいじめ問題への対応のあり方（演習） 第9回：不登校と生徒指導①：不登校の理解と予防・未然防止から考える不登校 第10回：不登校と生徒指導②：事例で考える不登校児童生徒の理解と具体的支援のあり方（演習） 第11回：生徒指導の今日的課題：ICTと生徒指導 第12回：生徒指導における法の扱い：校則や体罰について 第13回：チーム学校で取り組む生徒指導：チームと連携のあり方と学校組織内チーム連携 第14回：チーム学校で取り組む生徒指導：連携と協働（模擬演習） 第15回：学校教育における生徒指導の意義と役割：包括的生徒指導と教師の力量形成（まとめ）				
テキスト 生徒指導提要（改訂版）（文部科学省令和4年12月）				
参考書・参考資料等 マルチレベルアプローチMLA誰もが行きたくなる学校づくり日本版包括的生徒 指導の理論と実践（栗原慎二編著、ほんの森出版）、生徒指導・進路指導の理論と方法（会沢信彦 他編著、北樹出版）、その他、授業中に適宜資料を配布する				
学生に対する評価 次の3つの方法を組み合わせて実施する ① 期末課題（授業内容に関して指示された内容についての記述）50% ② グループワーク及びディスカッション（事例検討と相互評価）30% ③ 個人レポート（授業を通して学んだことのリフレクション）20%				

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田(山崎) 清美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
《テーマ》学校教育相談を進める際の基礎的知識を学ぶとともに、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。			
《到達目標》			
1 教育相談の意義と理論			
(1) 学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。			
(2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。			
2 教育相談の方法			
(1) 生徒の不適応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解することができる。			
(2) 学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。			
(3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。			
3 教育相談の展開			
(1) 職種の校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。			
(2) いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解することができる。			
(3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組の必要性を理解することができる。			
(4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。			
授業の概要			
教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。授業では、発達支持的教育相談、課題予防的教育相談について理解し、さらに不適応や問題行動等の課題への支援のための基礎的知識を学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。			

授業計画

- 第1回：学校教育相談とは
- 第2回：学校教育相談の定義と歴史
- 第3回：子どもの理解と指導
- 第4回：子どもの発達と発達課題
- 第5回：生徒指導と学校教育相談
- 第6回：カウンセリングの理論と実際
- 第7回：豊かな授業を創造する教育相談的アプローチ
- 第8回：学級経営と学校教育相談
- 第9回：来談者中心カウンセリング
- 第10回：ブリーフカウンセリング
- 第11回：社会性と情動の学習（SEL）
- 第12回：学級担任が行う学校教育相談
- 第13回：子どもの話の聴き方
- 第14回：事例検討
- 第15回：保護者との連携

定期試験

テキスト

生徒指導提要（改訂版）文部科学省

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

学生に対する評価

【試験】50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する）

【提出物】20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する）

【授業への参加状況】30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (養護)		単位数：2単位		担当教員名：柴崎 卓己子	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次 秋学期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	×
受講者数 10人					
教員の連携・協力体制 教職科目担当・専門科目担当教員と密な連携を図りながら、学生の課題を明確にし、不足している知識や技能等を補うことを目指す授業を構築する。また、現場で活躍する養護教諭の意見や保健活動の実際を反映させながら、実践に即した授業を展開できるよう努める。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 養護教諭として、適切な判断力・適応力・倫理観を持つことができる。 2. 学校教育に関する基礎的な知識を獲得できる。 3. 子どもの健康課題の解決に向けて知識・技能を習得するとともに研究的視点を持つことができる。					
授業の概要 養護教諭の役割、対人関係やコミュニケーション能力の形成、児童生徒の保健管理と保健室経営、課題解決に向け学び続ける姿勢について、自らの養護実習体験を発表し、討論をすることで養護教諭の使命や役割について学ぶ。 教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補う。模擬授業を実践し、教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身に付けているか確認する。さらに、実習校などの経験をもとに、学校教育目標を踏まえて児童生徒の健康課題などの事例検討を行い、課題解決型の保健室経営計画を作成する。					
授業計画 第1回：教職実習演習の目的、意義、展開 養護教諭としての自らの課題を「履修カルテ」をもとに明らかにする 第2回：養護実習の振り返り① 各自教育実習の振り返りと共有、今後の課題 第3回：養護実習の振り返り② 実習校の児童生徒の健康課題（ICT活用） 第4回：健康観察 養護教諭の役割と対応、事例をもとにグループ協議、発表（ICT活用） 第5回：事件・事故への対応 養護教諭の役割と対応、学校危機管理マニュアル、事例をもとに協議 第6回：学校環境衛生 養護教諭の役割と対応、学校薬剤師、学校環境衛生活動、検査 第7回：健康相談 養護教諭の役割と対応、事例をもとにグループ討論、発表（ICT活用） 第8回：保健室経営 学校保健計画、安全計画、保健室経営計画 第9回：救急処置 養護教諭の行う学校救急看護場面でのアセスメント、ヒヤリ・ハット 第10回：メンタルヘルスの理解 学校におけるメンタルヘルスに関する問題、養護教諭の対応、グループ討論					

第11回：特別支援教育 児童生徒の障害の特徴、教育的ニーズ、養護教諭の具体的支援
 第12回：プレゼンテーション① 養護実習、本演習を総括し、養護教諭について考察し発表する（ICT活用）
 第13回：プレゼンテーション② 養護実習、本演習を総括し、養護教諭について考察し発表する（ICT活用）
 第14回：プレゼンテーション③ 養護実習、本演習を総括し、養護教諭について考察し発表する（ICT活用）
 第15回：まとめ これからの時代の求められる養護教諭、目指す養護教諭像

テキスト

改訂 養護実習ハンドブック 大谷尚子（他）著 東山書房 2015年刊行

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート 60%

プレゼンテーション 20%

グループ活動 20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。